

不安を喜びに変える モデルロケット教室

●編集室(以下編) モデルロケット教室の参加者の反響は?

●植松社長 内容の素晴らしい感想文を送ってくれる子が多かったです。「夢をあきらめません」って書いてくれるのが一番うれいんですね。教室では、前の人のロケットが、あまりにも速くに飛んでいくもんですから、順番を待つ間「自分のロケットは大丈夫かな?」と不安になるようなんですね。「失敗するかもしれない」と不安を抱きながらボタンを押すと見事に飛んで、子どもたちは大喜び。

成功が約束されている体験って意味がないと僕は思っています。不安の後の喜びが重要で、このモデルロケットってというのは絶妙に不安をかき立ててくれるんです(笑)。ある女子大生はロケット作りの際、「私不用用だから」って言っていました。「いつから不用用なの?最初から?」って聞くと、しばらく考えてから「小学校の夏休みの仕事を馬鹿にされてから不用用になった気がする」と答えてくれました。その後、ロケットを作ってみるとちゃん

と飛びました。「私不用用じゃなかった」と喜んでいましたね。ロケット作りは自分に自信を与えてくれるのです。

●編 「どうせ無理」と思わずに「だったらこうしてみたら?」と考えるようになったのは?

●植松社長 子どもの頃から成績が良くなかったし、いろんな人から「お前の夢は叶わない」と言われ続けてきました。「飛行機やロケットの仕事は無理だ」とさんざん言われても負けなかったのは、ライト兄弟などの伝記を読んでいたからなんです。本には夢を諦める方法が書いていない。先人たちは壁にぶつかつたとき、「だったらこうしてみたら?」と次の手を考えるんです。その考え方を教えてくれたから、辛いときも乗り越えられたんだろうと思います。

●編 小さな頃から考えることは好きでしたか?

●植松社長 疑問に思ったら考えたいんですよ。そのきっかけは、「ファール昆虫記」かな。ファールは「なんでかな?」と思ったら仮説を立てて試すわけです。仮説が違ったら別の方法を試して

みんなが「わー」と集まってくるんです(笑)。しかし高校生くらいになると、ためらって誰も来ないんです。大切なのは、子どもたちが持っている夢と希望を奪わないこと。

と。幼稚園児が持っている輝きを伸ばせば、才能豊かな人間がいっぱい集まると思うんです。

(写真左)「車や飛行機などの仕組みには意味がある。プラモデルは参考資料になるんです」と、子どもの頃から好きなプラモデルを前にニコリ。地方講演の合間に、各地の店に立ち寄ります (写真右)社長室には、紙飛行機の本から歴史本、マンガまで、これまで読んできた本がぎっしりと収まっています



●編 みんなが夢を持っている方がいいですか?

●植松社長 夢はみんな持っていると思うけど、夢は大きくない方がいいですね。「愛しません」「愛する人が今日もケガをしなくて帰ってきますように」というのも、立派な夢なんです。夢って挑戦してみたいことや大好きなことを指すと思うので、全ての人が本来持っている

と飛びました。「私不用用じゃなかった」と喜んでいましたね。ロケット作りは自分に自信を与えてくれるのです。

地域の人に伝えたいメッセージ

株式会社植松電機 植松 努 代表取締役社長

巻頭特集

夢は誰もがもっている

マグネット(電磁石)の自社製品で国内シェア9割を占める一方で、独自に宇宙開発も行っている株式会社植松電機。植松努代表取締役社長は失敗と成功を繰り返しながら、ロケットづくりの夢を叶えました。積み重ねてきた経験を元にした講演や書籍が、幅広い世代から支持を得ている植松社長。自身の過去を振り返りながら、夢をあきらめない心についてお聞きしました。

ポリエチレンを使用し、低コストで安全性に優れたCAMUIロケット。植松電機敷地内に展示されています



いく。そのプロセスは、僕にすぐ染み込んでいる感じがしています。考えるときに一番気をつけているのは「何かのせいにしてはいけない」こと。困難が起きたとき、それを誰かのせいとか何かのせいにする、思考が止まるんです。たとえば景気が悪いのは政治のせいって言ってしまうと、そこで終わっちゃう。例えばそれが正しくとも、別の視点で物事を捉えるようにすべきだと思うんです。

夢を大いに語る

●編 今の子どもたちに感じることは?

●植松社長 昔みたいに無茶な子はいないんですよ。みんないい子で優しいんです。だから問題にぶつかつたときにあきらめてしまったり、やめることによって問題を都合良く収めてしまう。でもそのような対処法で社会に出てしまうと、自分の居場所を失うだけなんです。あきらめたりやめたりしない方法を身につけてほしいなと強く感じます。

モデルロケット教室には幼稚園児も来ますが、その子たちに対して「このボタン押したい人?」なんて言おうもんなら、「このボ...」あたりで、

るんです。それが学校の過程で夢を進路や職業に限定させる人がいるから、本来の夢の意味がわかんなくなっちゃうんです。

●編 夢を叶える秘訣は?

●植松社長 とにかく、夢をしゃべりまくることです。出会う人みんなに夢を話しましょう。挑戦したいことがある場合は、経験者と仲良くなれば、実現可能になります。経験者と出会うために自分の夢を人に話していたら、必ず巡り会えます。だから夢を話すべきなんです。

●編 SORA読者へメッセージを

●植松社長 このエリアは、とても恵まれています。札幌からたった1時間なのに、自然は豊かで物価が安い。お米が穫れて、食糧自給率も高い。だからこの良さを生かしてもっと自活していく必要があると考えています。それを叶えるためには、優秀な人材が必要。さらには、優秀な人材をいかにこの地に留めていけるかを考えなくてはな

りません。そのためには、まずは私たち地域住民がまちの良さを知る努力をすべきと考えます。

●編 最後に、未来を担う子どもたちにメッセージを

●植松社長 GPSや自動翻訳など、僕が子どもの頃にはなかったものが現代には溢れています。さまざまな可能性に満ちる時代に生まれた君らはラッキーだよと伝えたいですね。大人が言う根拠のない「できない理由」に負けずに、自分が信じる道を進んでほしい。自分の人生は、自分のもの。何だってできます。

●植松社長 どんどん夢をしゃべって、どんどん仲間を増やして、誰かの夢を聞いたら助けてあげましょう。それをみんなできり組めば、世の中はあっというまに幸せになると私は信じています。

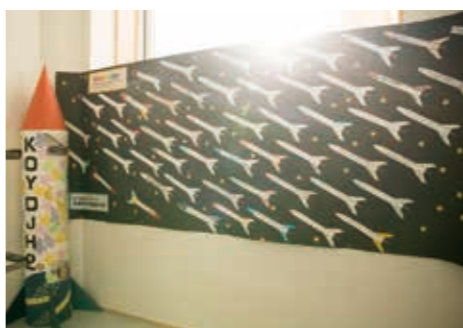


株式会社 植松電機

赤平市共和町230
https://uematsudenki.com

業務内容 車両搭載型低電圧電磁石システム
設計・製作・販売

研究内容 超小型人工衛星関連
微小重力実験関連機器
真空技術



年に6回開催されているモデルロケット教室(写真右)。定員100人のうち9割は道外から参加しています。修学旅行生も受け入れているほか、JAXA宇宙教育センターと共同で、科学教育を行うコスミックカレッジを開催。年間1万5千人の人が日本各地から訪れています。体験学習を受けた感想や感謝を伝えるメッセージ(写真左)には、「夢に向かって頑張りたい」など前向きな言葉が並んでいます

